

同じ地球に生きる子どもたち

～ ようこそジンバブエへ ～

田渕和恵 相模原市立共和小学校

実践教科：学級活動・8時間

対象学年：1学年 対象人数：32名

(1) 実践の目的

子供たちにとって、未知であるアフリカ大陸。聞いたこともない国ジンバブエ。

導入として「私たちの住んでいる国」を考えさせた。日本はどんな国かを掴んだ上、身近な外国である中国（隣国の大きい国、似た文化を持つ国）やアメリカ（知らずのうち文化を享受している国）を折りに触れ、話してきた。聞いたことはあるが、なじみの薄い国メキシコを題材としてフォトランゲージも行った。知識や思考の幼い彼ら。しかし、未知のことを知りたいという意欲や好奇心、みずみずしい感性にあふれている。

ジンバブエを貧困へと導くメカニズムはあまりに複雑である。先進国—発展途上国の間に横たわる南北問題だけでは解決されない。こういった複雑な社会情勢の問題を背伸びして考えさせるのではなく、彼らにあった発達段階の中で考えさせたい。大人が持っている開発途上国と先進国のイメージを押し付けるのではなく、子供たちの想像性、発想力を大切にしていける授業作り、できるだけプラスの発想で外国のひとつであるジンバブエを紹介したい。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 限目 テーマ:「わたしたちの国」 ねらい:自分の生きる国について考える	(1) 自分の住んでいる地域、町、市、県名を確認する。 (2) 「日本」の特徴を話し合う。 (3) 知っている外国の名前のアンケートをとる	日本地図 (資料①)
2 時間目 テーマ:「世界の国々」 ねらい:世界の国々に興味を持つ	(1) 世界地図で日本の場所を確認する。 (2) 地球儀を使って、地球は丸いこと、いろいろな国があることを確認する。	地球儀 (グループ4人で一つ) 世界地図
3 時間目 テーマ:「外国:アメリカ合衆国」 ねらい:ALTの先生と交流する。	(1) ALTの先生にアメリカ合衆国のことを質問する。 (2) 外国語の一つである英語に触れる。	世界地図
4 時間目 テーマ:「外国:メキシコ」	(1) アンケート結果を知る。	アンケート結果

ねらい: フォトランゲージを楽しむ。	(2) メキシコに関するフォトランゲージに参加する。 → 理由付けをはっきりさせる。	世界地図 メキシコシティの写真 メキシコの暮らしの写真
5・6 時間目 テーマ: 「ジンバブエ」 ねらい: ジンバブエの自然や文化、町並み、食べ物、工芸品に興味を持つ。	(1) アフリカ大陸の位置を確認する。 (2) アフリカ大陸のイメージを話し合う。 (3) ジンバブエで撮影した写真を紹介する。 (4) ショナ彫刻や布など、ジンバブエの工芸品に触れる。	世界地図 ジンバブエの地図、国旗 都会や田舎の風景、食べ物や観光地の様子がわかる写真 ショナ彫刻、工芸品 (木の籠)
7 時間目 テーマ: 「ジンバブエに生きる子どもたち(田舎の様子)」 ねらい: ジンバブエに生きる子どもたちの生活を考える。	(1) ジンバブエに生きる子どもたちの写真を見て、どんな暮らしをしているか話し合う (2) ジンバブエに生きる子どもたちの「お手伝い」を、これまで取り組んできた「お手伝い」とつなげながら、話し合う。	ジンバブエの地図、国旗 ジンバブエの田舎の写真 ジンバブエの子どもの写真 ふきだしカード
8 時間目 テーマ: 「ジンバブエに生きる子どもたち(学校の様子)」 ねらい: ジンバブエの小学校の様子を知る。	(1) ジンバブエの小学校の様子がわかる写真を見て、どんな授業を受けているか考える。 (2) ジンバブエでの音楽授業 V T R を視聴し、感想を発表する。 (3) 元隊員 深山さんの話を聞く (4) 元隊員 深山さんへ質問をする (5) 授業のまとめを行う。	フラッシュカード ジンバブエの小学校の写真 ジンバブエで行った音楽授業の V T R

【授業の詳細】

1 時間目 「ぼく・私の住んでいる国～日本～」

はじめに、日本地図を提示した。対象児童一年生には、「みんなが生まれ、生きている所」であると共通理解した。(資料①板書) ジンバブエや外国の前に、まずは自分の住んでいる地域や国について、おぼろげながらもイメージしてほしかったからである。授業の最後には「知っている外国の名前」のアンケートをとった。

知っている外国の名前：：：アンケート結果

中国 2 2 名、 アメリカ 1 9 名、 韓国 1 9 名、 ブラジル 1 5 名、 フィリピン 1 4 名
ドイツ 1 3 名、 イタリア 1 2 名、 ロシア 1 2 名、 香港 1 0 名、

- * アフリカ 8名 *アジア 8名 イギリス 6名、インド 5名、タイ 5名、オーストラリア 5名、アルゼンチン 4名、
- * スペイン 4名、フランス 4名、台湾 3名、カナダ 3名 *北海道 2名、*南アメリカ 2名、サウジアラビア 2名、
- *スウェーデン 2名、トルコ 2名、ニュージーランド 2名 イラク 2名、イラン 2名、*ニューヨーク 2名、
- *バンコク 2名、*ロンドン 2名、モンゴル 2名、ブータン 1名、アンゴラ 1名、パプアニューギニア 1名、北朝鮮 1名、マレーシア 1名、ケニア 1名、タヒチ 1名、ルクセンブルグ 1名、バグダッド 1名、
- *沖縄 1名、北極 1名、*石川 1名、*バグダット 1名、*パリ 1名、

【傾向】

- ・中国・韓国・香港などの近隣諸国の名前を知っている子が多い
- ・北海道、沖縄、石川など飛行機で行く国内の場所を外国だと思っている子もいる。
- ・ヨーロッパの国名や地名を知っている。有名な都市名を国名と認識している。（*は誤答）
- ・ALTの先生がアメリカ出身だったため、アメリカに興味がある子も多い。
- ・クラスにはフィリピン出身の保護者が2人いるからか、身近な国である。
- ・サッカーを習っている子の影響か、ワールドカップ出場国の名前を知っている子がいる。
- ・北欧、中東、南米、アフリカの国名は少ない。大陸名、地域名を国名と認識している。

2時間目「世界の国々～地球儀をながめて～」

世界地図で日本の位置や大きさを確認したあと、世界の大きさや世界地図の気づきを話し合い、日本の外の国→外国へ目をむけさせた。その後、グループに一つ地球儀を用意し、世界の国々に興味を持たせた。（資料②グループ活動）児童の保護者の出身国フィリピンや、韓国や中国など、日本と比較的近い国、イメージしやすい国の場所を確認したり、知っていることなども発表しあったりした。大変楽しめたようだ。

3・4時間目「世界の国々 ～外国1：アメリカ合衆国、外国2：メキシコ～」

世界の共通言語である英語に触れる。ALTの先生にアメリカ合衆国について気になることを質問した。アメリカの文化を無意識のうちに享受していること、ボーダーレスな文化の共有という気づきにつながった。

次に、アメリカの隣国であるメキシコを選び、初めてフォトランゲージを行った。一枚の写真から想像できることを発表する。できるだけ多くの意見をとりあげ板書した。常に、「どうしてそう思ったの？」となげかけ、予想の根拠となる理由付けを明確にさせた上で、発言を促してきた。メキシコという国については「聞いたことがある国」であり、比較的イメージしやすい国のようだ。フォトランゲージの導入として、よい資料であったと思う。（資料③フォトランゲージ）

この国はどこでしょう。どうしてそう思ったのか、理由も教えてください。

- インド・・・肌の色がちやいろいから
- アメリカ・・・外人がたくさんいるから
- ブラジル・・・おどりがうまそう。
- 韓国・・・建物がゴツゴツしているから
- イタリア・・・イタリアの旗だと思っから
- タイ・・・暑そうな衣装・踊りもタイっぽい

フォトランゲージの結果・・・一枚の写真から想像する手がかり

- * 踊っている人の肌の色
- * 遠くに見える旗の色
- * 建物の感じ
- * 民族衣装
- * ダンス・カーニバル、楽しい、暑そうなど、自分の持っているイメージ

5・6 時間目 「ジンバブエ～国の様子をつかむ・自然、文化に興味を持つ～」

はじめに世界地図でアフリカ大陸の位置を確認させた。「アフリカ」は国ではなく、一つの大陸であるという理解、前回のアンケート結果を提示し、アフリカの国々の名前を知っている子は少ないことを知らせた。授業前、児童が持っているアフリカのイメージは以下の通りである。

- * 動物が多い。虎はいないけど。ライオンや象、ラクダもいる
- * 砂漠があるところ。暑くて、ラクダもいる。砂漠はサハラ砂漠という名前
- * 暑い所：沖縄とか、南のほうがあったかいから。もっと下は、もっと暑い。
- * 怖い病気があるところ → 蚊が手に刺したら、病気になってしまう。
- * 恐竜の骨がたくさん発掘されてるんだ。
- * サッカーが強い。日本は対戦してよく負けてしまうから。あと、黒人がいる。
- * エジプトには、ピラミッドがある。布をまいている。

ジンバブエの自然や環境の写真を紹介する時間。子どもたちの持っている「物があまりなく大自然が広がる」というイメージを覆すべく、首都であるハラレの様子をはじめに提示した。(資料④ハラレ)

- * 大都会。きっと僕の学区の周りよりも大きな町だよ。
- * 道路が広くてびっくりした。駐車場とかあるのかな？ 人がたくさん働いていると思う。そして、大自然がわかる田舎の風景や、子どもたちになじみのある動物の写真を紹介した。

その後、ジンバブエの主食サザから、食文化について考えさせた。(資料⑤サザ)

- * カレーだと思う。→確かに。辛い味の野菜スープのタレだったよ。
- * わかめに見える。いや、高菜だ。おつけものにも見える。→高菜のような味でした。

ジンバブエの主食からみえる国の形。「わかめに見える」という発言は貴重であった。日本は海に囲まれているが、ジンバブエは内陸国である。そのため、昆布やわかめのような海草や海の魚はめずらしいという話につながった。

- * お米だと思う。いや、なんとかポテトっていう料理で、チーズとかがのっているんだ。

ジンバブエの主食である「サザ」。毎日食べる主食は、児童が予想した米やジャガイモではない。その原料は、とうもろこしの粉であることを教えると、「へえ～」という声が教室中あがる。意外性に驚いていたようだ。

最後に、ジンバブエで買ったショナ彫刻や布を紹介した。(資料⑥ショナ彫刻に親しむ)

触ってみてショナ彫刻の石の重さを感じたり、布の模様にあるジンバブエの生活の楽しさを見出したりしていた。マーケットの様子を想像する手がかりになったようだ。写真に加え、実物を紹介したことは、効果的であった。

7時間目「ジンバブエに生きる子どもたち①～田舎の様子（お水くみのお手伝い）」

田舎の風景を紹介したあと、水くみをしている男の子の写真を提示する。何をしているところかとなげかけると、「ペットボトルみたいのをもっているから水くみ」をしていると、大多数の子どもたちが予想した。そこで、この男の子、

どんなことを考えながら、水くみのお手伝いをしてるんだろう。

となげかけた。ふきだしを用意して、男の子になって考えさせ、児童から出た言葉をふきだしカードに板書した。（資料⑦板書）

- * 水くみたのしいな 男の子が笑っているから
- * 暑くて重いから、大変だなあ。
- * お水をこぼさないように早くおうちにもってかえろう。
- * お水は、いつも使うよ。料理のために使うから大切なんだ。
- * 林が火事になっちゃったら、お水で消す。
- * お風呂でも使うから、水くみのお手伝いをがんばるよ

料理や、お風呂のためにお水くみのお手伝いを毎日していることを知らせた。話は、1時間くらい歩いたら井戸がある設定に続く。井戸の写真を掲示すると、子どもたちが想像するような井戸ではなかったようで、以下の疑問の声が次々にあがった。

「どうして井戸まで、お水をとりにいかにくちやいけないの？」

はじめに紹介した都会のイメージが強かったようだ。そのため、見るからに汚い井戸まで水くみに行くことは想像できない子どもたち。ジンバブエには、都会と田舎の大きな違い（同じ国内にある大きな貧富の差・整備されていない地域）があるということに気づかせた。日本にも都会や田舎はある。しかし、インフラの面でこのような差はない。井戸の写真をみた疑問や驚きの声はさらに続く。

- * 井戸のお水は汚いよ。井戸のお水には、ばい菌がはいっているし。
- * 雨とか土とまざってるかもしれないから。のんだらおなかをこわしてしまうかもしれないよ。
- * 水道のお水を飲んだ方がいいんだよ。

そこで、次のように、子どもたちに切り返した。先ほどの子どもの素直な疑問である。一緒に考えてもらいたかったテーマに迫る。

どうしてこの子は、わざわざ毎日、井戸から、お水くみのお手伝いをしているんだろう？

- * このおうちに水道がないから。田舎には水道がないと思う。
- * 毎日の料理で使うから。お水をとりに行くお手伝いをしている。

ここの村にはきちんとした水道がない。だからお水を井戸まで毎日とりに行っているんだという気づきにつながった。以下は授業をふりかえっての感想である。

- * お水は生きるために、必要なんだ。
- * 「お手伝い」といっても、**家族のために大切なお手伝い**をがんばってる
- * 都会と田舎では、ぜんぜん違う国みたい。

「お手伝い」と関連させ、ジンバブエの子どもたちの日常を考える

2学期に入り一ヶ月間、生活科のなかで、「お手伝いにチャレンジ」に取り組んできた。料理や掃除、洗濯、家族のために力になれることを探し、自分が継続的にできるお手伝いに取り組んできた。また、国語では「お手伝いのスピーチをしよう」の時間を設け、得意な手伝いをグループ発表してきた。そこで同じ年くらいの子どもたちがやっているお手伝いである「水くみ」に注目させた。

一枚の写真から、水くみのお手伝いをがんばっている子どもを想像させた。

楽しそうに笑う少年から「水くみ楽しいな。」という。

彼の日常は、遠く1時間もかけて歩く山道のお手伝いとともにある。

「どうして、毎日水くみしなくちゃいけないの?」「井戸の水は汚いんだよ」という素直な疑問や言葉から、「水は生きるために必要」であること、「家族のためにやっている大切なお手伝い」であることの気づきにつなげてきた。自分たちがやっているお手伝いと、ジンバブエの子どもがやっているお手伝いの質の違いに気づいたようだ。

8時間目「ジンバブエに生きる子どもたち②～小学校の様子」

小学校に行ったことが一番楽しかった思い出という私の話から授業を始めた。教室の様子の違い、算数授業の様子（資料⑧算数授業）、音楽朝会の様子（資料⑨音楽朝会）などを紹介した。

何のお勉強をしているでしょう。

- * 図工・・・何か物がのっているから。（空き缶に注目したらしい）
- * 生活科・・・種があるから（子どもたちは4月に朝顔の種を植え、継続的に観察してきた）
- * 国語・・・となりにカラフルな教科書があって、書く物もあるから
- * 算数・・・種があるから。僕たちは算数セットを使ったけど、豆をつかって足し算を勉強すると思う。

写真から自分の小学校生活や勉強教具と関連づけて、幅広い意見を交換できた。また、音楽授業のVTRでは、ジンバブエの子どもたちが楽しく歌う様子が魅力的だったようだ。そのなかで日本語の歌を歌っている様子に注目させる。「どうしてジンバブエの子どもたちが日本の歌を歌うことができるのか・・・」という疑問に答えるべく、元隊員である深山さんのお話を聞く時間となった。日本と遠く、全く事情は異なるジンバブエという国。しかし、国は違っても、優しく温かい心はどこの国も変わらない。

ジンバブエで子どもたちと楽しく教員生活を送っていた話に、子どもたちは真剣に耳を傾けていた。

◆◆◆資料◆◆◆



①板書



②グループ活動



③フォトランゲージ



④首都：ハラレ



⑤サザ



⑥シヨナ彫刻に親しむ



⑦板書



⑧算数授業



⑨音楽朝会